

思い月記

明けましておめでとうございます。

十二月三十一日除夜の鐘と共に二十三時五十九分五十九秒からたった一秒のことで一月元旦新しい年を迎え新たな気持ちになるなんて人間は不思議な動物である、今年こそはと思いながら何となく一年を送りやがて人生を終えて行く、人間ぼけしてしまっている間に年をとってしまったという私の平成二八年である。

先日外科のお医者さんと話をしていたが、夜寝ることは一端死ぬのだそうな、そして全身麻酔も同じ事で麻酔して一旦は死ぬのだと言う、従って喉から人工呼吸の管を入れなければならぬんだと。

そんな話を聞きながら今日の一日の命の大切さをしみじみと味わいながら仏様の教えを感じたことである。

夜やすむ時は南無阿弥陀仏、と今日も一日ありがとうございましたと唱えながら、朝起きたときは、ああ今日も命があった南無阿弥陀仏と唱えて今日も素晴らしい一日を送らせてもらおうと唱えながら一日・一月・一年・一生を送る。

南無阿弥陀仏とは「ありがたい」という言葉であり、南無とは帰命（命が帰る所「浄土」）無量寿（仏様の教えはこれだけ信心したら、しなければならぬという難しいものではない、要するに）はかることの出来ない、お任せする、誰に？如来様である、これを他力本願（仏様が仕上げて下さったもの）なのであって、この私も自力では、なかなか出来ない修行や、行だけけれど、ああそうですかと頷く事が大事と言うことだが、これが又、難しい、素直に受け取れないのである、何を？任せることが、これだけ私にとって簡単であるのになんと難しいことなのだ、素直に自分を見つめない、見つめることが出来ない私を立ったまんま（阿弥陀様は立像で立ち通し、しかも、少しでも早くと前屈み）で、我が出る私に怒ることなく、半眼でもって対してくださっている、死んだら終わりじゃないよ、大切な生命を教えて下さってありがとう。

今日一日も帰る家がある、どうやって帰るか、私の家は何処かと考えた事があるだろうか、表札が掛かっているか確かめたことがあるだろうか、頭にインプットされた事によって誰に聴かなくてもカーナビが無くて帰ることが出来る、浄土とはそんな自然なものなのである。大切な今日の命よありがとう。